



「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったりパソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

地域学校協働活動とは？

「地域学校協働活動」とは、地域と学校が連携・協働して子供たちの学びと成長を支える活動のことで、地域の人たちが子供たちと関わることで、地域の活性化にもつながる活動です。

昔は、子供たちは、地域での遊びや子ども会活動、家庭や地域での様々な行事や手伝いなどの体験を通して、先輩・後輩といった異年齢間の人間関係の在り方や人への思いやりなどを学び、成長していったと思います。

現在の子供たちは、社会環境の変化によって、地域での異年齢間の遊びや体験活動を行う機会が少なくなっているため、社会総掛かりで子供たちの学びと成長を支える「地域学校協働活動」に国全体で取り組んでいます。

学校で地域の人たちがボランティアとなって行う学校応援団活動はもちろん、学校で行われている地域人材による外部講師の活用、職場体験学習などの校外学習なども「地域学校協働活動」です。また、地区公民館で取り組んでいる青少年講座、市内それぞれの地域で子供たちが関わる地域行事、子ども会活動や地域の人たちによる子供たちの見守り活動なども「地域学校協働活動」になります。



「地域学校協働活動」を進めることで、子供たちが地域の人たちに見守られ、支えられながら、豊かな学びや体験活動を行い健やかに成長していくことは、地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える将来を担う人材の育成につながるものです。さらに、子供たちが、地域の行事や活動に積極的に参加し、地域の人たちが子供の学びと成長を支える活動に参加することで、地域全体の活性化が図られ、地域創生につながっていくことが期待されています。

～年に4回の全国交通安全運動など 市内全域で子供たちを見守り～

「春の子供の安全見まもり大作戦」が4月6日から15日まで市内全域で実施されました。交通安全運動は年に4回、春夏秋冬に行われますが、市内30箇所以上の交差点や横断歩道で、交通安全協会やボランティアの方々によって街頭指導、子供たちの見守り活動が行われています。

4月11日の松之尾交差点では、交通安全協会枕崎西分会の上釜久信さんが子供たちの街頭指導、見守り活動を行っていました。「20年以上街頭指導をしているが、昔と比べて最近では子供の数が少なくなって寂しい。」と話してくれました。

また、枕崎小学校近くの越脇（こえわき）交差点では、多くのボランティアの方々子供たちとあいさつを交わしながら街頭指導・見守り活動を行っていました。



松之尾交差点で見守り活動を行う上釜さん



越脇交差点での街頭見守り活動

～全校生徒で茶摘み体験学習～ 別府中学校

別府中学校では4月24日に、校区内の瀬戸にある国立研究開発法人「農研機構」の茶畑で、全校生徒62人が茶摘み体験学習を行いました。枕崎市は栽培面積が県内4位のお茶の産地で、中でも別府地域は茶業が地元の基幹産業であり、市内のお茶生産の主力となっています。茶摘み体験学習は、20年以上前から続いている、働く尊さと特産品について学ぶ別府中の恒例行事です。



開聞岳を望む別府台地で茶摘み体験

生徒たちは、お茶の手摘みの手法である「一芯三葉(いっしんさんよう)」を指で挟んで摘み取るやり方を教わり、その後実際に茶摘みを行いました。

一芯三葉とは、上質な緑茶を作るための手摘み手法の一つで、良芽を選び、芯芽と芽の下の葉を一枚、二枚、三枚と数えつつ丁寧に摘む方法です。通常は機械で刈り取りが行われますが、生徒たちは、昔ながらの手摘みで茶葉を指で挟み丁寧に摘んでいき、貴重な体験をさせていただきました。1時間余りの作業で約68kgの茶葉を収穫することができました。茶葉は農研機構で加工され、煎茶になって生徒のもとに届けられるということです。

生徒たちは、お茶の手摘みの手法である「一芯三葉(いっしんさんよう)」を指で挟んで摘み取るやり方を教わり、その後実際に茶摘みを行いました。

一芯三葉とは、上質な緑茶を作るための手摘み手法の一つで、良芽を選び、芯芽と芽の下の葉を一枚、二枚、三枚と数えつつ丁寧に摘む方法です。通常は機械で刈り取りが行われますが、生徒たちは、昔ながらの手摘みで茶葉を指で挟み丁寧に摘んでいき、貴重な体験をさせていただきました。1時間余りの作業で約68kgの茶葉を収穫することができました。茶葉は農研機構で加工され、煎茶になって生徒のもとに届けられるということです。

～学校田で手植えの田植えを体験～ 桜山小学校

桜山小学校では、4月9日に5年生23人が校区内で農業を営む山崎己代治さんの指導で、学校田での田植えを体験しました。最初に、山崎さんから米についてのお話を聞いた後、さっそく田んぼの中へ。ひんやりした水に足を付け、泥に足を取られながら、子供たちは4本くらいずつ稲をとり、1つ1つ丁寧に植えていきました。



手植えで稲の苗を丁寧に植えていく

その後は、乗用田植え機での田植えも体験させていただきました。機械を使うとあっという間に作業が進み、機械の便利さを実感した子供たちでした。

植えられた稲は早期水稲で、5アールの学校田で「うるち米」と「もち米」を半々ずつ育てます。8月に稲刈り、12月には餅つきを予定しています。



乗用田植え機での田植えも体験

別府中学校では4月24日に、校区内の瀬戸にある国立研究開発法人「農研機構」



「一芯三葉」を説明する農研機構の吉田さん

を指で挟んで摘み取るやり方を教わり、その後実際に茶摘みを行いました。

一芯三葉とは、上質な緑茶を作るための手摘み手法の一つで、良芽を選び、芯芽と芽の下の葉を一枚、二枚、三枚と数えつつ丁寧に摘む方法です。通常は機械で刈り取りが行われますが、生徒たちは、昔ながらの手摘みで茶葉を指で挟み丁寧に摘んでいき、貴重な体験をさせていただきました。1時間余りの作業で約68kgの茶葉を収穫することができました。茶葉は農研機構で加工され、煎茶になって生徒のもとに届けられるということです。

～立神校区内の南海自動車学校で 交通安全教室～ 立神小学校

4月になり新1年生を迎え、枕崎市内の小中学校ではそれぞれの学校で交通安全教室が行われています。立神小学校では、4月18日に1年生16人と2年生39人が学校で交通安全のDVDを見た後、立神校区内にある南海自動車学校で、実際に自動車を走らせて実践的な交通安全教室を行いました。

南海自動車学校を1時間貸し切りにして、自動車学校の先生方や市の交通安全指導員が交通安全指導を行うもので、自動車学校の好意で30年以上も続いている行事です。

最初に、安全な横断歩道の渡り方を教わりました。子供たちは、自動車が実際に道路を走っている中で、「止まる」「見る」「待つ」を何度も確認していました。その後、自動車がブレーキをかけても急には止まれず風船を割ってしまう実験、ダンボールが自動車の陰から車道に飛び出して自動車と衝突してしまう実験などが行われ、自動車の怖さを目の前で実感していました。



車が止まるのを確認して横断歩道を渡る

桜山小学校では、4月9日に5年生23人が校区内で農業を営む山崎己代治さんの指導で、学校田での田植えを体験しました。最初に、山崎さんから米についてのお話を聞いた後、さっそく田んぼの中へ。ひんやりした水に足を付け、泥に足を取られながら、子供たちは4本くらいずつ稲をとり、1つ1つ丁寧に植えていきました。